

6月のささやまっこだより

令和5年6月1日
篠山保育園
園長 足立善一郎



「ふうあついな〜」。こんな声が聞かれる日が続きました。子どもたちも木陰に入ると「ここはすずしい」「風があるよ」と涼み方を見つけているようです。緊張がほぐれ始めた子どもたちは、友だちとのかかわりも今まで以上に深くなってきています。そこで増えてくるのが友だちとのぶつかり合いです。例えば“おもちゃのとりあい”。自分の隣にあったものを使おうとただけ!取ったつもりではなかったのにそれを使っていた子が怒ってしまう。友だちとぶつかり「たたいた」「たたかれた」ということも生じます。けがにならないようにとは考え配慮していますが、間に合わないときもあります。そのような時には子どもたちに申し訳ないと思います。ただ、このようなぶつかり合いにきちんと向き合い、自分の問題としてとらえることは、子どもたち自身が次にどのようにしていったらいいのかと「考える場」になります。担任や仲間の意見を聞きながら、解決していく方法を身に付けていくことこそ、この時期の大切な保育園の役割の一つと考えています。このような機会をつくることで、子ども

ちに自分で考える力がついてくれればと願っています。時には、保護者の皆さんの力をお借りしないと解決できないこともあるかと思いますが、そのような時にはご協力をお願いします。小さいクラスの子どもたちも動きが活発になってきています。一生懸命に立とうとしている子、一步一步つたい歩きに挑戦している子と毎日が感動でいっぱいです。



おおきなあれ!

今、ばら組さんは“野菜”を、ふじ組さんは“ひまわり”を育てています。子どもたちは、毎日水やりしながら「おおきくなってきたぞ」、「芽が出たあ」等、植物の「成長」を感じ取っているようです。植物のお世話をすることで、植物に愛着が沸いてきます。これから成長する間にいろいろな感情を体験することで命の尊さを理解し喜びやかなしみの気持ちが育まれていくことでしょう。

野菜もひまわりも無事に成長できることを願っています。

※登園時などに、お子さんがプランターの所まで保護者の皆さんを連れて行き、いろいろ説明すると思いますので、話を聞いてあげてください。



「たんじょうび おめでとう」



保育園では、毎月誕生日月の子どもたちをお祝いする「誕生会」があります。その月の“ヒーロー、ヒロイン”なのです。そして、もも、ふじ、ばら組さんは誕生カード用に寄せられた家族のからのメッセージを聞きながら、うれしそうな顔を見せてくれます。お父さん、お母さんが大切に育ててくれた想いがひしひしと伝わってきます。誕生会の会場も“ほっこり”した雰囲気になります。また、当日は園長の友だちの『ぼんちゃん』がお祝いに来てくれます。

※小さいクラスの子どもたちは、ぼんちゃんに慣れるまで少し時間がかかりますが、慣れてしまえば心待ちにしてくれるようになります。



6月の行事予定表

9日(金) 第1回歯科検診(9:30〜)

17日(土) 園内研究会【職員会】

21日(水) 避難訓練

27日(火) 誕生会

5日、19日…えいごであそぼう(ばら組)

12日、26日…えいごであそぼう(ふじ組)

保育参観日程表

6日 もも組	13・14・15・16日 すみれ組
7日 ふじ組	15・16・19・20日 たんぽぽ組
8日 ばら組	12・13・14日 さくら組

7月の行事予定表

4日(火) プールあそび開始

15日(土) } おとまり会(ばら組)
16日(日) }

20日(木) 避難訓練

25日(金) 誕生会

3日…えいごであそぼう(ばら組)

10日…えいごであそぼう(ふじ組)

15日はおとまり会のため、他のクラスは午後2時迄にお迎え下さい

『すぐに転んでけがをするのは、なんで?』 3歳児保護者

遊んでいて簡単にケガをする子や、すぐに疲れる子、人をよけて走ればよく転ぶ子が増えています。中には、転んだだけで骨折したり、転んだ拍子に吐瀉に手が出なかったため顔や頭を打ったりする子も。日々の運動量の少なさから、基本的動作が身についておらず、ケガをしてしまうことが多いとのこと。最近では、子どもの知的能力を伸ばすことばかり求める傾向にあります。幼年期は、運動することで脳を活性化していきます。体を動かすことが脳を発達させることを忘れないように!

〈対応法〉遊びが運動能力を育てます

大事なことは、スポーツではなく、体を動かすことが楽しい、と思える遊びです。遊ぶことで運動の発達が著しく育ち、「おもしろい!」「楽しい!」と興奮することで脳の資質も育ちます。また、友だちとのコミュニケーション力の向上や、認知的な発達にもつながります。一生のうちでもっともいろいろな動きを習得できるのが幼児期です。遊びによって体を動かすことで身のこなしがしなやかになり、瞬発力、判断力などが育ち、自分の体を守れるようになるのです。子どもたちが自分の身を守れるようになっていくことが安全な子育ての一環だということを認識して、子どもと向き合っていきたいものです。

『0歳児から5歳児行動の意味とその対応』今井和子著より

給食職員による対面での配膳 再開!

新型コロナの感染予防で中止していた、対面での配膳を再開しました。もも組さんは初めての事。「いっぱいごはんちょうだい」など、給食職員と会話をしながらご飯をもらっていました。給食職員も子どもたちの食べる量や好きなメニューを聞きながら、調理に活かしていきます。



“いっぱい食べてグングンおおきなあれ!”

《お知らせ》

6月から、藤本一馬保育士(パート)が仲間入ります。園長より人生の大先輩。体を動かすことが大好きだということです。よろしくお願いします。

